



Business Intelligence プラットフォームリポジトリ診断ツールユーザガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 Feature Pack 3

2012-05-10

著作権

© 2012 SAP AG. All rights reserved. SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP BusinessObjects Explorer、StreamWork、SAP HANA、および本文書に記載されたその他の SAP 製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々における SAP AG の商標または登録商標です。Business Objects および Business Objects ロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他の Business Objects 製品およびサービス、ならびにそれぞれのロゴも含めて、Business Objects Software Ltd. の商標または登録商標です。Business Objects は SAP の子会社です。Sybase および Adaptive Server、iAnywhere、Sybase 365、SQL Anywhere、および本書で引用されている Sybase 製品およびサービス、ならびにそれぞれのロゴも含めて、Sybase, Inc. の商標または登録商標です。Sybase は SAP の子会社です。Crossgate、m@gic EDDY、B2B 360°、B2B 360° Services は、ドイツおよびその他の国々における Crossgate AG の登録商標です。Crossgate は SAP の子会社です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2012-05-10

目次

第 1 章	ドキュメント履歴.....	5
第 2 章	リポジトリ診断ツール.....	7
第 3 章	リポジトリ診断ツールの使用.....	9
3.1	リポジトリ診断ツールを使用する.....	9
3.2	リポジトリ診断ツールのパラメータ.....	10
第 4 章	CMS と FRS 間の不整合.....	17
第 5 章	CMS メタデータの不整合.....	19
付録 A	より詳しい情報.....	23
	索引.....	25

ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0	2011 年 11 月	このドキュメントの初版です。

リポジトリ診断ツール

リポジトリ診断ツール(RDT)は、Central Management Server(CMS)システムデータベースと File Repository Server(FRS)ファイルストアの間に生じるおそれのある不整合、または CMS データベースに保存されている InfoObject のメタデータで生じるおそれのある不整合のスキャン、診断、および修復を行うコマンドラインツールです。

通常の操作では、CMS システムデータベースに不整合が発生することはありません。しかし、災害復旧、バックアップの復元、ネットワーク障害などの予期されないイベント中に、不整合が発生することがあります。このような場合、タスクの実行中に、CMS システムデータベースが中断されることがあります。これによって、CMS システムデータベースのオブジェクトに不整合が生じる可能性があります。

RDT は、CMS システムデータベースをスキャンし、レポート、ユーザ、ユーザグループ、フォルダ、サーバ、ユニバース、ユニバース接続などのオブジェクトおよびその他のオブジェクトの不整合を識別します。

RDT は、2 種類の不整合をスキャンします。

- ・ オブジェクトからファイルへの不整合。

これらは、CMS データベース内の InfoObject とファイルリポジトリ内の対応するファイル間で生じるおそれのある不整合です。たとえば、FRS に格納されたファイルに対応するオブジェクトが CMS システムデータベースに存在しないなどです。

- ・ InfoObject メタデータの不整合。

これらは、CMS データベースの InfoObject のオブジェクト定義(メタデータ)に存在する可能性のある不整合です。たとえば、InfoObject は、CMS データベースに存在しない別の InfoObject を参照する場合があります。

RDT は、ツールの実行時に指定したパラメータに応じて 2 つの機能を実行します。

- ・ CMS システムデータベースおよび FRS ファイルストアをスキャンし、不整合をレポートします。また、XML 形式のログファイルを出力し、不整合を修復するためのアクションも提示します。
- ・ CMS システムデータベースおよび FRS 内の識別された不整合をスキャンおよび修復し、実行したすべてのアクションと変更を XML 形式でレポートします。

リポジトリ診断ツールの使用

リポジトリ診断ツール(RDT)は、セントラル設定マネージャ(CCM)がインストールされている任意のマシンで使用できます。このコマンドラインツールは、Central Management Server(CMS)システムデータベースと File Repository Server(FRS)ファイルストアの間に生じるおそれのある不整合、または InfoObject のメタデータで生じるおそれのある不整合のスキャン、診断、および修復を行います。

CMS データベースと FRS ファイルストアをバックアップし、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサービスがダウンしている間にバックアップしたバージョンに対して RDT を実行することをお勧めします。これを実行できない場合は、アクティブなデータベースで RDT を実行することができます。

アクティブなデータベースで RDT を実行する場合は、以下の事項に留意してください。

- ・ RDT は実行中、データベース接続を 1 つ使用します。
- ・ RDT は、実行開始時点までのデータベースの整合性のみをチェックします。RDT の実行中に発生した整合性は記録および修正されません。
- ・ RDT を実行するホストマシンには、RDT トランザクションを処理するためのシステムの通常の推奨容量を上回るメモリを搭載することをお勧めします。
 - ・ Info オブジェクトが 50,000 以下のデータベースには、処理用にさらに 350 MB 必要です。
 - ・ Info オブジェクトが 50,000 ～ 400,000 のデータベースには、処理用にさらに 1.7 GB 必要です。
 - ・ Info オブジェクトが 400,000 ～ 1,000,000 のデータベースには、処理用にさらに 4 GB 必要です。
- ・ RDT は CMS サーバから実行する必要はありません。別のマシンで実行することにより、システムパフォーマンスへの影響を軽減できます。
- ・ このツールは実行中、データベースのパフォーマンスにやや影響を与える場合があります。

RDT を実行するために CMS サービスを実行する必要はありません。RDT は CMS データベースに対して直接実行されます。

3.1 リポジトリ診断ツールを使用する

- 1 Windows コンピュータでリポジトリ診断ツールを実行する場合は、コマンドウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。
`<INSTALLDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%win64_x64%reposcan.exe <arguments>`。ここで、`<arguments>` は指定するパラメータの一覧です。
- 2 Unix コンピュータでリポジトリ診断ツールを実行する場合は、`/usr/bin/sh` 互換シェルを開き、次のコマンドを実行します。

. <INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/<platform>/boe_reposcan.sh <arguments>。ここで、<platform> は、linux_x64、solaris_sparcv9、hpux_ia64、または aix_rs6000_64 のいずれかで、<arguments> は指定するパラメータの一覧です。

リポジトリ診断ツールでは、リポジトリをスキャンして、不整合を検出します。指定するパラメータに応じて、不整合を診断してログに記録するか、不整合を修正して実行するアクションをログに記録します。

Repo_Scan_yyyy_mm_dd_hh_mm_ss.xml には、このツールで検出された不整合が一覧表示されます。このツールで検出された不一致を修正した場合は、Repo_Repair_yyyy_mm_dd_hh_mm_ss.xml ファイルも作成されます。このファイルには、修正されたオブジェクト、および削除されたすべての孤立ファイルについて詳細が記録されます。修正できない不整合がある場合は、その情報も含まれます。

ログファイルのパスは、outputdir パラメータで指定できます。このパラメータが指定されていない場合、ログファイルのデフォルトディレクトリは、Windows の場合は <INSTALLDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%reposcan、Unix の場合は ./sap_bobj/enterprise_xi40/reposcan です。

注

このアプリケーションは、XML ファイルと共に使用して HTML ページを生成する、既定の XSL ファイルも提供します。この XSL ファイルは、Windows の場合は <INSTALLDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%reposcan、Unix の場合は ./sap_bobj/enterprisexi_40/reposcan に保存されています。

不整合が検出された場合の警告メッセージおよび RDT で実行される推奨アクションの一覧については、『CMS メタデータの不整合』および『CMS と FRS 間の不整合』を参照してください。

関連項目

- ・ 19 ページの [CMS メタデータの不整合](#)
- ・ 17 ページの [CMS と FRS 間の不整合](#)

3.2 リポジトリ診断ツールのパラメータ

RDT は、次の表に示すパラメータを受け入れます。

注

実行するときには、コマンドライン引数によってパラメータファイルのエントリが上書きされます。

表 3-1: 一般のパラメータ

パラメータ	オプション/必須	説明
dbdriver	必須	<p>CMS データベースへの接続に使用するドライバの種類。指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ db2databasesubsystem ・ maxdbdatabasesubsystem ・ mysqldatabasesubsystem ・ oracledatabasesubsystem ・ sqlserverdatabasesubsystem ・ sybasedatabasesubsystem
connect	必須	<p>CMS データベースへの接続に使用する接続の詳細。</p> <p>例: -connect "UID=root;PWD=<password>;DSN=<dsn>;HOSTNAME=<hostname>;PORT=<portnumber>"</p>
dbkey	必須	<p>BI プラットフォームデプロイメントのクラスタキーを入力します。クラスタキーの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の「BI プラットフォームのセキュリティ確保」を参照してください。</p>
inputfrsdir	必須	<p>Input File Repository Server のファイルパス。</p> <p>注 ログオンに使用するユーザアカウントは、コマンドラインツールの実行にも使用されます。そのファイルの場所に対して、フルコントロールを持つ必要があります。</p>
outputfrsdir	必須	<p>Output File Repository Server のファイルパス。</p> <p>注 ログオンに使用するユーザアカウントは、コマンドラインツールの実行にも使用されます。そのファイルの場所に対して、フルコントロールを持つ必要があります。</p>
outputdir	オプション	<p>RDT でログファイルを書き込むファイルパス。</p> <p>デフォルト値は、Windows の場合は <INSTALLEDIR>\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\reposcan、Unix の場合は ./sap_bobj/enterprise_xi40/reposcan です。</p>

パラメータ	オプション/必須	説明
count	オプション	<p>スキャンするエラー(疑わしいものを含む)の数。これにより、パフォーマンスが最適化されます。最大数は $2e31 - 1$ です。値 0 は、リポジトリ全体と解釈されます。</p> <p>デフォルト値は 0 です。</p>
repair	オプション	<p>RDT で検出されたすべての不整合を修正します。デフォルトの動作は、不整合を報告するだけで修復は実行しません。-repair パラメータがコマンドラインに存在する場合、RDT はすべての不整合をレポートして修復します。</p> <p>警告 このプロセスでは、リポジトリデータベース内の孤立したオブジェクトまたはファイルを削除します。</p>
scanfrs	オプション	<p>RDT で CMS と FRS の不整合をスキャンするかどうかを指定します。指定できる値は、True と False です。</p> <p>デフォルト値は True です。</p>
scancms	オプション	<p>RDT で InfoObject 間の不整合について CMS をスキャンするかどうかを指定します。指定できる値は、True と False です。</p> <p>デフォルト値は True です。</p>
submitterid	オプション	<p>スケジュールされたオブジェクトの見つからない ID または無効な ID を置き換えるユーザ ID を指定します。値を指定しない場合、RDT では無効な ID を置き換えません。提供されているユーザ ID が CMS に存在しない場合、有効な ID の入力が必要です。</p> <p>このパラメータは、RDT が修正モードで動作している場合にのみ使用されます。</p>
startid	オプション	<p>スキャンを開始する CMS データベース内のオブジェクトを指定します。たとえば、リポジトリ内の最初の 500 個のオブジェクトをすでにスキャンしている場合は、-startid=501 を設定して、新しいスキャンが 501 番目のオブジェクトから開始されるようにできます。</p> <p>デフォルト値は 1 です。</p>

パラメータ	オプション/必須	説明
optionsfile	オプション	<p>パラメータファイルへのファイルパスを指定します。パラメータファイルは、各コマンドラインオプションとその値を示すテキストファイルです。このファイルには、1 行ごとに 1 つのパラメータが必要です。</p> <p>注 このオプションを使用して、テキストファイル内のすべてのパラメータを上記で説明したとおりに設定できます。このオプションを使用すると、コマンドラインにパラメータを入力せずにパラメータファイルを指定することができます。</p>
syscopy	オプション	<p>このパラメータは、リポジトリデータベースをコピーする際に使用されます。新しく作成したコピー上でツールを実行する必要があります。これにより、コピーが更新されて、ソースシステムサーバでクラスタリングされなくなります。コピーとソースシステムが通信できなくなる場合、これは必要ありません。このパラメータは、このリストにある他のオプションパラメータと組み合わせずに必須パラメータとだけ併用するようにしてください。</p> <p>注 ソースシステムで、syscopy パラメータと一緒に RDT を実行しないように注意してください。</p>

次のパラメータは、リポジトリ診断ツールがクラスタ化された有効な CMS データベース上で稼働している場合に使用します。

表 3-2: クラスタ化された CMS に対する RDT の使用

パラメータ	オプション/必須	説明
requestport	オプション	<p>RDT が CMS と通信する際に使用するポート番号。正の整数を指定します。デフォルトでは、RDT が実行されているマシンのオペレーティングシステムの値が使用されます。</p>
numericip	オプション	<p>RDT が、CMS と RDT を実行するマシンとの間の通信にホスト名ではなく数値の IP アドレスを使用するかどうかを指定します。指定できる値は、True と False です。</p> <p>デフォルト値は False です。</p>

パラメータ	オプション/必須	説明
ipv6	オプション	RDT が実行されているマシンの ipv6 名。文字列を指定します。 デフォルト値は、RDT が実行されているマシンのホスト名です。
port	オプション	RDT が実行されているマシンの ipv4 名。文字列を指定します。 デフォルト値は、RDT が実行されているマシンのホスト名です。
threads	オプション	使用するスレッドの数。正の整数を指定します。 デフォルト値は 12 です。

次のパラメータは、RDT が SSL を使用してスキャン対象の CMS データベースと通信する際に使用します。

表 3-3: SSL を使用する RDT の使用

パラメータ	オプション/必須	説明
protocol	オプション	ツールを SSL モードで実行するかどうかを指定します。 指定できる値は、ssl だけです。
ssl_certdir	オプション	SSL 証明書を含むディレクトリ。
ssl_trustedcertificate	オプション	証明書のファイル名。
ssl_mycertificate	オプション	署名付き証明書のファイル名。
ssl_mykey	オプション	SSL プライベートキーを含むファイルのファイル名。
ssl_mykey_passphrase	オプション	SSL パスフレーズを含むファイルのファイル名。

例

次の例では、CMS と FRS をスキャンして、両方の種類の不整合を検出し、検出された不整合を修正します。

```
reposcan.exe
-dbdriver mysqldatabasesubsystem
-connect UID=root;PWD=Password1;DSN=myDsn;HOSTNAME=myHostname;PORT=3306
-dbkey <cluster key>
-repair
-inputfrsdir C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\FileStore\Input
-outputfrsdir C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\FileStore\Output
```

CMS と FRS 間の不整合

次の表に、Central Management Server(CMS)データベースと File Repository Server(FRS)間で生じるおそれがあり、リポジトリ診断ツール(RDT)で認識できる不整合についての説明を示します。この表には次の 4 つの列があります。

- 警告メッセージ

スキャンログファイルおよび修正ログファイルに書き込まれる警告メッセージ。

- 不整合

RDT がオブジェクトで検出した不整合の説明。

- 推奨

RDT が不整合を検出したときに実行する必要がある推奨のアクション。これは、スキャンログファイルに記録されます。

- アクション

不整合を修正するために RDT が実行するアクション。これは、修正ログファイルに記録されます。

警告メッセージ	不整合	推奨	アクション
〈オブジェクトの名前〉 オブジェクト〈オブジェクトの種類〉(オブジェクト ID = 〈ID〉)は FRS(〈ファイルの名前〉)内に存在しないファイルを参照しています。	オブジェクトは CMS データベースに存在しますが、対応するファイルが FRS にありません。	アプリケーションにより、見つからないファイルをオブジェクトのファイルリストから削除できます。	RDT は、CMS データベースからオブジェクトを削除します。
ファイル 〈ファイルの名前〉は Input または Output FRS に存在しますが、リポジトリには対応する InfoObject がありません。	ファイルは FRS に存在しますが、CMS データベースに対応するファイルがありません。	ファイルを再公開してください。このアプリケーションではファイルは再公開されません。	ファイルを再公開すると、CMS データベースにオブジェクトが作成されます。
〈オブジェクトの種類〉 オブジェクト〈オブジェクトの名前〉(オブジェクト ID = 〈ID〉)にファイル 〈ファイルの名前〉があります。保存されたファイルサイズは 〈サイズ〉 バイトで、実際のファイルサイズである 〈サイズ〉 バイトと一致しません。	ファイルのサイズが、InfoObject のファイルサイズと一致しません。	アプリケーションにより、オブジェクトを正しいファイルサイズで更新できます。	RDT は、CMS データベースでファイルサイズを更新します。
〈フォルダパス〉 にはファイルがありません。	FRS フォルダが空です。	アプリケーションにより、ディレクトリを削除できます。	RDT は、空のディレクトリを削除します。

CMS メタデータの不整合

次の表で、Central Management Server(CMS)システムデータベース内のオブジェクトのメタデータで発生する可能性があり、リポトリ診断ツール(RDT)で認識される不整合について説明します。この表には次の 4 つの列があります。

- 警告メッセージ

スキャンログファイルおよび修正ログファイルに書き込まれる警告メッセージ。

- 不整合

RDT がオブジェクトで検出した不整合の説明。

- 推奨

RDT が不整合を検出したときに実行する必要がある推奨のアクション。これは、スキャンログファイルに記録されます。

- アクション

不整合を修正するために RDT が実行するアクション。これは、修正ログファイルに記録されます。

警告メッセージ	不整合	推奨	アクション
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト〈オブジェクトの名前〉(オブジェクト ID = 〈オブジェクトの名前〉〈ID〉)の親オブジェクトが見つかりません(親オブジェクト ID = 〈ID〉)。	オブジェクトの親オブジェクト IDが見つからないか、無効です。	アプリケーションにより、オブジェクトを "BO 修復" フォルダへ移動できます。	RDT は、オブジェクトと子オブジェクトをすべて修正フォルダに移動します。管理者だけがこのオブジェクトへのアクセス権を持ちます。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト〈オブジェクトの名前〉(オブジェクト ID = 〈ID〉)の所有者オブジェクトが見つかりません(所有者オブジェクト ID = 〈ID〉)。	オブジェクトの所有者オブジェクト IDが見つからないか、無効です。	アプリケーションにより、オブジェクトを管理者へ割り当てることができます。	RDT は、Administrator の ID の値を、オブジェクト所有者 ID に割り当てます。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト〈オブジェクトの名前〉(オブジェクト ID = 〈ID〉)の送信元オブジェクトが見つかりません(送信元オブジェクト ID = 〈ID〉)。	オブジェクトの送信者オブジェクト IDが見つからないか、無効です。	RDT に表示される推奨事項は、-submitterid パラメータに値を指定したかどうかで異なります。 <ul style="list-style-type: none"> このパラメータを指定する場合、[アプリケーションにより、オブジェクトを正しいファイルサイズで更新できます。]オプションが推奨です。 このパラメータを指定しない場合、[オブジェクトを再スケジュールするか、-submitterid コマンドラインを使用して、無効な送信元 ID を置き換えます。]オプションが推奨です。 	-submitterid パラメータの値を指定すると、RDT はオブジェクトの送信元 ID の値を適用します。 このパラメータの値を指定しない場合、RDT は何も実行しません。オブジェクトを再スケジュールすると、CMS によって新しい ID が適用されます。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID = 〈ID〉)の最後に成功したインスタンスのプロパティは、見つからないオブジェクト(オブジェクト ID = 〈ID〉)を参照しています。	オブジェクトの最後に成功したインスタンスが見つからないか、無効です。	アプリケーションにより、プロパティを再計算できます。	オブジェクトを再スケジュールすると、CMS によって ID が自動的に再計算されます。

警告メッセージ	不整合	推奨	アクション
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID: 〈ID〉) のカレンダーオブジェクトが見つかりません (カレンダーオブジェクト ID = 〈ID〉)。	オブジェクトは、存在していないカレンダーを参照しています。	既存のカレンダーを持つオブジェクトを再計算します。このアプリケーションによる操作は実行されません。	オブジェクトを再スケジュールすると、CMS によってカレンダーがオブジェクトに適用されます。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID = 〈ID〉)に必要なスケジュールサーバグループが見つかりません(サーバグループオブジェクト ID = 〈ID〉)。	必要なサーバが存在しません。	オブジェクトを再スケジュールし、既存のサーバグループを選択します。このアプリケーションによる操作は実行されません。	オブジェクトを再スケジュールすると、CMS によってサーバグループがオブジェクトに適用されます。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID = 〈ID〉)の待機するイベントのリストには、見つからないオブジェクト(複数可)(オブジェクト ID = 〈ID〉)が含まれています。	このオブジェクトが待機している 1 つまたは複数のイベントが存在していません。	アプリケーションにより、待機するイベントのリストから見つからないイベントを削除できます。	RDT は見つからないイベントを削除します。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID = 〈ID〉)のトリガするイベントのリストには、見つからないオブジェクト(複数可)(オブジェクト ID = 〈ID〉)が含まれています。	このオブジェクトは、存在していないイベントをトリガしています。	アプリケーションにより、見つからないイベントをオブジェクトがトリガするイベントリストから削除できます。	RDT は見つからないイベントを削除します。

警告メッセージ	不整合	推奨	アクション
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID: 〈ID〉) のアクセスコントロールリストは、見つからない主体 (オブジェクト ID = 〈ID〉) を参照します。	アクセスコントロールエントリが孤立しています。	アプリケーションにより、見つからない主体をオブジェクトのアクセスコントロールリストから削除できます。	RDT は見つからない主体を削除します。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト'〈オブジェクトの名前〉'(オブジェクト ID = 〈ID〉) に無効なサーバグループエントリ〈サーバグループエントリ〉があります。	必要なサーバが存在しません。	アプリケーションにより、サーバグループのリストからオブジェクトの無効なエントリを削除できます。	RDT は、オブジェクトのサーバグループリストからオブジェクトの見つからないエントリを削除します。
〈オブジェクトの種類〉オブジェクト〈オブジェクトの名前〉(オブジェクト ID = 〈ID〉) には、お気に入りフォルダが複数あります。	特定のユーザアカウントに複数のお気に入りフォルダがあります。	アプリケーションにより、複数のフォルダを 1 つのお気に入りフォルダに統合できます。	RDT は、ユーザのお気に入りフォルダを 1 つのフォルダに統合します。

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

と

ドキュメント履歴 5

リ

リポジトリ診断ツール

概要 7

使用

Windows および UNIX 9

リポジトリ診断ツール (続き)

パラメータ 9

不一致

オブジェクトからファイルへ 7

シナリオ 7

診断と修復 7

不整合のテーブル

推奨事項 17, 19

